

第2回 愛西市こども家庭センター運営協議会会議録（概要）

会 議 名	令和6年度 第2回 愛西市こども家庭センター運営協議会
開 催 日 時	令和7年2月6日（木）午後2時00分から午後3時10分まで
開 催 場 所	愛西市役所 北館3階 災害対策本部兼会議室
出 席 者	別紙のとおり
欠 席 者	別紙のとおり
議 事 等	1 会長あいさつ 2 協議事項 （1）令和6年度こども家庭センター事業実施状況について【資料番号1】 （2）令和7年度こども家庭センター事業計画（案）について【資料番号2】 3 その他
公開／非公開の別	公開
非公開の理由	—
傍聴人の数	—
会 議 資 料	次第 名簿 資料番号 1 令和6年度こども家庭センター事業実施状況について 資料番号 2 令和7年度こども家庭センター事業計画（案）
審議経過	別紙のとおり

愛西市こども家庭センター運営協議会委員

役 職	氏 名	備 考
会 長	谷本 紅美	
副 会 長	塩之谷 真弓	
委 員	長谷川 修三	
〃	戸田 輝子	
〃	水谷 紀子	
〃	渡邊 志保	
〃	長谷川 悦夫	
〃	垣見 昌江	
〃	平野 千津	
〃	安達 和枝	
〃	加藤 紀佳子	
〃	渡辺 雅樹	代理 土井 由紀子

事務局

課および役職			氏 名
健康子ども部	部長兼こども家庭センター長		人見 英樹
保 健 福 祉 部	参 事		高松 潤也
健康子ども部	子育て支援課	課長	前野 輝次
		課長補佐	横井 暁子
		主査	神田 真愛
		主任	麻西 志保
健康子ども部	健康推進課	課長	猪飼 政和
		主査	藤松 志乃
		主事	浅井 彩乃
教 育 部	学校教育課	主幹	伊藤 昭良

審 議 経 過

発言者	内容（概要）
会長	1. 会長あいさつ
会長	2. 協議事項 協議事項（1）「令和6年度こども家庭センター事業実施状況について」、事務局から説明をお願いします。
事務局	（1）「令和6年度こども家庭センター事業実施状況について」 事務局より、資料番号1に基づき説明
会長	事務局の説明について、ご質問、ご意見ありますか。
委員	虐待相談が31件、そのうち22件が児童相談所からのケースということですが、その22件について内訳等お聞きしたいです。
事務局	22件中、児童相談所からの送致は初回であるものが多いです。例えば夫婦げんかを目撃して、子どもさんが110番したケースや、お子さんの発達相談に繋がった方がいいというようなケースです。そのため、送致がきっかけになり、相談につながることはあります。 市が継続して関わるケースの場合、児相相談所の介入が必要だと判断したケースは児童相談所に送致しています。 虐待のリスクが高いケースの中には、夫婦不仲の問題を抱えているご家庭もあり、その際は母子父子自立支援員へ繋がっています。また、子どもの発達で困っている方はあいさいっ子相談室に繋がったりとそれぞれのケースに合わせた支援を行っております。
会長	協議事項（2）「令和7年度こども家庭センター事業計画（案）について」、事務局から説明をお願いします。
事務局	（2）「令和7年度こども家庭センター事業計画（案）について」 事務局より、資料番号2に基づき説明
会長	事務局の説明について、ご質問、ご意見ありますか。 （質問、意見なし） 他に皆さんにご協議いただきたい事項はありますか。

事務局	こども家庭センターを設置し、事業内容について検討しておりますが、国の子育て支援の施策の中でも、こどもの居場所づくりについて重要視している現状があります。 そのため、この場で委員さんそれぞれの機関が今子どもにとってどのような居場所になっているのか、また、子どもにとってどんな居場所が必要だと考えておられるのかご意見をいただきたいです。
会長	市内の児童館で中高校生が利用しているという話を聞いたことがあります、市はどのように把握していますか。
事務局	市内の児童館の中には、毎週、曜日と時間を決めて、中高生タイムを企画している児童館があります。毎回 10 人弱の来所があり、その中でも一番多いのが中学生とのことです。高校生は部活動等の関係で、来所の人数は少ないですが、テストが終わったタイミングや、長期休みに来所してくれる子がいると聞きました。来所すると、児童館にあるゲームで遊んだり、集まって話をしていたりすることが多いようです。男女問わず、小学校から児童館、児童クラブを利用していた子が多く、児童館の職員に会いにきて、部活動のことなど、話しているようです。児童館としては何かイベントを開催するというよりは、中学生高校生を対象に、居場所の提供をしています。
委員	児童館の 4 月から 9 月までの中高校生の利用人数は 1 7 5 人でした。小学生の利用人数は 2, 4 6 8 人です。利用目的は、地域との交流や地域組織育成を目的とした活動に小学校 4 年生ぐらいまでの子が利用しています。卓球が人気ですが、最近では囲碁や将棋も人気で特に将棋はキャンセル待ちしても参加できない状況です。他にも連鶴作り、茶道、大正琴、フラワーアレンジメント、カレー作りやお好み焼きなどのクッキングもしています。地域の講師の方や母親クラブの方に協力していただきながら、行事を進めています。行事以外に自由来館してくる小学校高学年の子には卓球が一番です。トランプなどのカードゲームをしたり、ボードゲーム（人生ゲームなど）をする場として利用する子が多いです。中学生の子の利用は児童館まつりやクリスマス会のボランティアとしての来館です。クリスマス会の出し物では、アンパンマンのダンスをキレッキレに踊ってくれたので、会に参加した小学校の子は、すごく憧れたようで、「中学生ってすごい」と感じたようです。学業に忙しい中学生に、ボランティア活動を通して、子どもたちとコミュニケーションを図りながら、気軽に安心して過ごせる場所として感じてもらえる児童館にしていきたいと思います。そして、いずれは中学生が 1 人でも利用できたり、友だちとの待ち合わせ場所に使ってもらえるような場所になればよいと思っています。地域における子どもの居場所として機能できるよう、利用

	するきっかけづくりとして、児童館をこんなことに使ってもいいんだ、児童館に行けばこんな先生もこんな友達もいる、こんなおもちゃもあるのだと思える場所になればよいと思います。また、いろいろな行事を企画し、居場所作りをしていきたいです。
会長	中学生の自由来館はありましたか。中学生に対して何か呼びかけをしていますか。
委員	中学生の自由来館はありません。中学生がもっている児童館のイメージは、小学校の子が遊びに行く場所となっているように感じています。ボランティアをしたことで「児童館って中学生も行ってもいいんだね」という言葉が聞かれたので、これをチャンスと捉え、中学生の自由来館を広げていけたらと思いました。
委員	子どもたちは悩みを持っています。学校では、相談タイムという担任と話す時間を各学期1回設定しています。また、保健室という居場所もあります。相談ポストも設置しているため、話しづらい子は利用しています。学校としては、子どもにとって安心して話ができる環境づくりに努めています。 また、スクールカウンセラーが中学校区ごとに配置されており、専門的な知識のあるスクールカウンセラーだからこそ話せることもあります。小学6年生になると中学校への不安を持っている子もあり、強制ではないが全員がスクールカウンセラーと顔合わせをする機会を設けています。 児童館を利用している子はたくさんいますが、行ける場所があることを知らせていくことが大切だと思っています。学校は、子どもたちが下校した後、門を開け、運動場を開放しています。遊びに来る子もあり、「先生、遊ぼう」と誘いに来る子もいます。少しでも子どもたちと楽しく過ごせる学校作り、いわゆる居場所作りをしていきたいと思っています。
委員	愛西市で実際、中学生の子が利用している施設はどこになりますか。 始めたきっかけがあるのでしょうか。
事務局	先ほどご紹介させていただいた施設は永和児童館です。中高生の居場所をつくったきっかけは把握をしていません。最初は利用が0に近い状態であったため、児童館の職員が中学校に出向いてPRしたそうです。放課後児童クラブ等で小学1年生の時から継続的に通っているお子さんと職員とで、信頼関係ができ、小学校を卒業して、中学生になっても利用してくれるという、人と人が繋がりや、SNSを通じたPRが来館の増加に繋がっているという

委員	話をお聞きしました。 交通指導員の仕事をしていると、下校の時児童と歩きます。他愛のない話の中から、児童の気持ちだとか悩みだとか家庭環境だとかが見えてくる時があります。歩きながらの話になるので、子どもと話せる場所はないと感じています。しかし、児童館の話を聞いて非常に希望が持てると思いましたので、ぜひ他の児童館等でも中高生に向けて「来てもいいんだよ」と語りかけてもらえるとういと思いました。中学校入学前には、制服はどのようなのだろうとか靴下は履いてはダメなものがあるのかなど本当に小さなことなのですが、子どもから相談をされます。そういったことを児童館で来館している中学生と交流しながら、「部活って何かあるの。」「どんな感じ」みたいなことが聞けるような環境が愛西市にもできたらいいなと思います。
会長	子どもたちに寄り添っていただきありがとうございます。 児童館の活性化ということで、中高生に参加をさせていろんなイベントを行ったり、中高生が、主体になって子どもたちにいろいろなことを行うことから、逆に中高校生の居場所として児童館を利用するという活動をされている方が愛知県内におられ、その方の活動を参考に永和児童館は、中高校生の居場所作りを始められたと伺っています。全国的にも児童館の活用として広まっていると思います。
委員	こども家庭センターは子育て世代を包括的に支援する中核的な存在として大きな期待で始まったと思います。統括支援員を中心として母子保健と児童福祉が連携しながら、いろいろな事業の企画が非常にきめ細やかに進められていると感じました。話題の中でも居場所作りというテーマがありました。が、こども家庭センターとしての機能はある程度作られた中で、今後はソフトな面が求められていると感じられました。居場所づくりの啓発や取り組みが今後さらに進むことが期待されていると思いました。皆様のお話の中で、愛西市の子育て支援に関わっている方々が子どもたちを非常に大切にされていて地域全体を育てていこうという気持ちが伝えわって来ましたので、地域の根差した親しみやすいこども家庭センターになることを期待しています。引き続き、保健所として協働していきたいと思います。
副会長	今年度、奈良県生駒市で開催された地域共生全国サミットに参加しました。今は医療と保険、福祉がそれぞれで進むのではなく、それぞれが連携して横軸でどう共にやっていくか、地域共生ということがテーマにあります。奈良県生駒市にはチロル堂（魔法の駄菓子屋）という居場所が2カ所あります。現在、孤独・孤立からの脱策として居場所が求められています。

	子どもがチロル堂に行くと、チロル札を100円で購入しそのお札を使って駄菓子や文房具を買ったり、ごはんを食べることもできます。 チロル堂は乳幼児から高齢者まで誰でも行ける場所であり、子どもたちの“たまり場”だけでなく、大人も心が豊かになれる場所です。 始めたきっかけは、もともと子ども食堂を開催していた際に、「子ども食堂に行っている」と近所の人と話をしているのを聞いて行きづらくなってしまった事があり、誰でも行けて、ごはんを食べるだけでなく、自由に遊べる場所を作ったようです。近所の方から野菜等の寄付もあり、愛西市でも地域性を活かしながら、このような居場所づくりを検討できるとよいと感じました。 また、不登校の子どもは全国で34万人います。不登校支援として「トーキョーコーヒー」が全国的に広がっています。“登校拒否”の文字を入れ替えたのが「トーキョーコーヒー」です。 「トーキョーコーヒー」は大人の無理解という視点から教育を考えて学び、世界一楽しい革命を目指しています。まず大人が思いっきり楽しみ、保護者が楽しめたり話し合いをしたりすることで、大人の心が落ち着き、それにより子どもが落ち着きます。学校に行くことを勧めるわけではなく、行きたい子は行きたい場所に行くということを支援している。
会長	愛西市でも子ども食堂を開催しているため、そこも活用しながら居場所について考えていただきたいと思います。
委員	愛西市の事業はハードは整っているが、ソフト面は魅力的でないと思います。こども家庭センター2年目で令和7年度の計画が出ましたが、目新しい事業がない。愛西市がハードとして、母子保健と児童福祉が今まで積み重ねられてきたんですが、どのようにこども家庭センターの新しい課題を見つけていくかが課題です。こども家庭センターのソーシャルワーカー配置についても考えて欲しい。また、教育との連携は非常に大事な視点であるが、なかなか進まない。虐待といっても、世間には不適切な養育、ネグレクトがものすごい数です。それが不登校やネット依存、ゲーム依存という形で現れ、引きこもりの子どもが増加しています。そこへの柔軟な対応のためには人の動きがとても大切ですが、行政だけの対応は難しいと思います。 小学生の不登校の子たちは通信制のフリースクールへ行きます。福祉が緩和されてやっているのですが、現場には問題も多い。しかし多様にいろんな窓口が出始めていることも事実です。そのため、行政には他機関との連携や調整がとても大事になってきます。ぜひ、このこども家庭センターの機能をもう1度、ソフトの面から見直し、令和8年度へつなげるために、課題見つけをしてもらえるといいと思います。

事務局	3 その他について 次回の会議開催については、令和7年8月を予定しております。 委員の皆様にはまたお世話になりますが、よろしくお願いいたします。 閉会
-----	---